

新品種春系キャベツ 『YR清美 (98026YR)』 を栽培して

株式会社 岩手県南青果市場
野菜部野菜1課
課長 小野寺 利

岩手県は夏秋系の『春系キャベツ』の産地で、各地の食卓へ供給しています。『春系キャベツ』は大変みずみずしく甘みがあり、食感もやわらかいため簡単に炒める料理に使うか、サラダ等の生野菜で食べるような用途として利用の方が良いとされています。

今回、雪印種苗(株)より紹介された新品種『YR清美 (以下：清美)』は春系キャベツに属する品種なので、この岩手県においては期待の品種になります。

『清美』の品種特性は、耐暑性強く春～初夏播き栽培で高温期の生育・収穫が可能な品種で生理障害も出にくく、耐病性も萎黄病や黒腐れ病にも強い特徴を持っています。また岩手県では問題とはなっていませんが、土壌病害である『パーティシリウム萎凋病』の抵抗性を持っているので安心して作付けが出来る品種と思われる。休閑



▲ 岩手県北部出荷組合の生産農家

時期が冬場という岩手県においては緑肥等の導入が厳しい場面もあり、病気に強い品種は大変興味があります。

今回試作した岩手町の岩手県北部野菜出荷組合は、葉菜類を中心に出荷しているグループで、キャベツは『春系キャベツ』を中心に作付けしており、栽培時期は4月から播種し、

収穫は7月下旬～10月になります。地元のスーパーなどに出荷されてみずみずしく甘みがあり、食感もやわらかいため大変好評です。

『清美』の栽培概要は、窒素成分16kgで元肥のみの施用で、畦間60cm、株間30cmで栽培されています。播種時期は5月中旬で6月中旬に定植を行



▲ 『YR清美』栽培風景

ないました。天候に関しては、植え付け前半は低温傾向でしたが降雨もあり、おおむね順調でしたが、後半は異例の高温・干ばつとなりました。

試作結果は降雨の影響もあり、吸肥力が良かったのか若干外葉が大きくなりました。場合によっては既存品種より減肥栽培（通常施肥から窒素成分で1～2割程度落とす）の方が良いと思われました。病気等に関して特に目立った発生も無く、栽培しやすい品種でした。品質的にも結球色も濃く照りがあり、大変見栄えのする品種で、今年は高温と干ばつで全体的に小玉傾向の中、『清美』は重量感のある収穫物で期待の出来る品種でした。ただし、収穫が遅れると『春系キャベツ』の宿命でもある玉割れが見受けられたので適期収穫を心掛けないとならないと感

じました。

今回は、種子の都合で5月中旬という播種期後半からとなってしまうので、来年は4月下旬頃からの播種でも検討してみたいと感じました。

岩手県でも温暖化の影響で気象状況が年々変わってきており、栽培農家が切磋琢磨しております。ぜひとも気候変動の影響が少なく、栽培しやすく、更に安定出荷が出来る品種を育成願いたいと節に感じております。



▲ 生育途中の『YR清美』



▲ 収穫前の『YR清美』（外葉が開帳気味に出来ている）



▲ 収穫時の『YR清美』①



▲ 収穫時の『YR清美』②



▲ 出荷され、箱への収まりが良い清美